

「はとバス×檜原村タイアップ企画
東京の森へ…檜原村サステナブルツアーア」の概要



檜原村エコツアーガイドの案内のものと、森林セラピーロードの散策をお楽しみいただくほか、農業など地域の生産者の保護や活性化に繋げる取り組みの一つとして、檜原村で採れた山菜を使用した昼食を提供。当ツアーアに使用する車両は優れた燃費と排出ガスの大幅削減を実現した、環境にやさしい大型観光ハイブリッドバス。なお、当ツアーアの売上金の一部は「檜原村エコツーリズム推進協議会」に寄付し、檜原村の環境保全に活用。

かを検討しました。その中から生まれたのが「サステナブルツアーア」のアイデアです。

原村のことですが、その経緯は？

檜原村でのツアーア企画

—サステナブルツアーアとしての檜原村でのツアーア企画

原村は弊社は過去にも檜原村でツアーアを行った経験があり、村内の施設とのつながりもありました。檜原村は島しょ部を除き東京都で唯一の村で、都心から2時間ほどでアクセスできます。四季折々の自然が楽しめる一方、都内在住でも訪れたことがない方が多いんです。そこで以前の経験を活かしつつ、「エコツーリズム」という新たな視点を加えてサステナブルツアーアとして企画しました。

—参加者の反応はいかがでしたか。

今年5月に1回、6月に3回、計4回実施し、すべて早期に満席となり、7月には追加開催するほど好評でした。合計208名、1回あたり40名ほどで、都内在住の方が中心。年齢層は50代、70代、80代の方もいらっしゃいました。約半数がお一人での参加というのも特徴です。

個人では行きにくい場所を気軽に訪れられることが魅力だったのだと思います。アンケートでは「楽しく癒されてリフレッシュできた」「自然が豊かで食事も美味しく、日常を忘れた」という声が多く寄せられました。昼食は地元食材を使った地産地消の料理で好評でした。

—広報や集客ではどのような工夫をされたのでしょうか。

プレスリリースだけでなく、初回ツアーアには新聞記者が同行し、記者が大きく掲載されました。ちょうどシカが姿を見せてくれて（笑）、その写真も使われたことで、紙面にインパクトが生まれ、多くの方の目に留まつたようです。首都圏だからこそ多くの方の目を惹き、また方々多く、メディアの力の大きさを実感しました。さらに「秋にも行きたい」という声を受け、今年10月・11月に追加で3回ツアーアを設定しています。紅葉の季節も楽しんでいただけます。また、第2弾としてエコツーリズムを推進している埼玉県飯能市でサステナブルツアーアを企画しています。

—地域の現場では、どのような課題を感じていますか。

やはり現地ガイドの存在は不可欠です。歴史や文化、環境を深く伝えることで、ツアーアの質が決まります。ただ、高齢化や人材不足で確保が難しい地域もあります。後継者の育成や観光サービス全体を支える人材育成が必要だと感じています。また、地域側との協力も欠かせません。観光を受け入れる

魅力的なツアーア企画の秘訣

—地域の現場では、どのような課題を感じていますか。

—ツアーアの実践と経営の両面からサステナビリティを考えるお話をうながしました。

—地域の現場では、どのような課題を感じていますか。

やはり現地ガイドの存在は不可欠です。歴史や文化、環境を深く伝えることで、ツアーアの質が決まります。ただ、高齢化や人材不足で確保が難しい地域もあります。後継者の育成や観光サービス全体を支える人材育成が必要だと感じています。また、地域側との協力も欠かせません。観光を受け入れる

株式会社はとバスは1948年創業以来、東京観光の代名詞ともいえる観光バス事業を中心に幅広く事業を展開してきた。2023年にサステナビリティ推進体制を整備し、環境保全や地域活性を軸に、2025年にはエコツーリズムに取り組んでいる東京都檜原村を舞台にした「サステナブルツアーア」を企画。都心から気軽に訪れる体験を提供し、地域資源の魅力を掘り起こすことで、参加者と地域の双方に価値をもたらす「サステナブルツアーア」の取組や魅力的なツアーア企画の秘訣について、同社の武市代表取締役社長に話を伺った。



武市 玲子氏
株式会社はとバス 代表取締役社長

収録日：2025年10月15日
収録場所：株式会社はとバス
インタビュア：水谷初子
(日本エコツーリズム協会理事・事務局長)



檜原都民の森 森林セラピーロードのウォーキング



2階建てのオープンバスで東京の主要な観光地を巡るツアーア

—2023年にサステナビリティ推進体制を整備された、きっかけについて教えてください。

私は2023年4月に社長に就任し、グループの企業理念や経営基本方針に沿って会社経営を進めてきました。基本方針は6項目あり、「安全最優先」「お客様第一」「人材育成」「企業体質の強化」「環境保全」「社会的責任」です。2009年7月に刷新され年月は経っていますが、理念自体は今も変わっていません。その中でも「安全最優先」と「お客様第一」については社内に浸透していると感じています。ただ、「環境保全」や「社会的責任」は「コロナ禍の影響もあって、やや取組が弱いと感じたのです。他の運輸事業者が積極的にサステナビリティの取組を進める中で、CO2を多く排出する観光バス事業者として、もっと積極的に動くべきだと思いました。

—環境保全や「社会的責任」は「コロナ禍の影響もあって、やや取組が弱いと感じたのです。他の運輸事業者が積極的にサステナビリティの取組を進める中で、CO2を多く排出する観光バス事業者として、もっと積極的に動くべきだと思いました。

—なるほど、社長直轄の経営推進室といふことがありますね。

はい。サステナビリティ基本方針に基づいて、重点的に取り組むべき課題として5つのマテリアリティを各部の具体的なアクションにつなげています。このうち「お客様満足度の追求」「環境保全・社会貢献」などの課題について、弊社の主力事業である観光バス事業で何ができる

ことが地域の活性化につながるという意識を地域側と企画側が共有するところが肝心で、行政のサポートも含め、互いに理解し合いながら進めいくことが大切だと思います。

—バスツアーアを企画する時に大切なことは何でしょうか。

まずは地域資源の発掘です。その土地に行かないと見られない景色、触れられない文化、日常では味わえない体験を参加者に届けたいと思う。地元の方にとって当たり前の自然や伝統も、外から訪れる方には大きな魅力になります。それを探り起こして紹介することが弊社のツアーア作りのDNAです。例えば、ロングランコースの例として、川崎の工場夜景ツアーアがあります。その魅力を発見し、ツアーアとして仕立て上げることで多くの方に楽しんでいただける体験にしています。単なる案内ではなく、現地ガイドによる丁寧な説明やストーリー性を持つことで付加価値の高い体験にしています。

特にサステナブルツアーアでは「食」や「体験」が評価のポイントです。地元食材の活用や地域に根ざした施設利用を積極的に取り入れ、参加者に特別な体験を提供すると同時に、地域活性化にもつなげています。

コース作りでは、コース委員会を開き、企画担当者だけでなく、運転士やバスガイドも加わって、これまでの経験や恵みを共有しながら行程を決定します。安全性や景観

の良さ、施設への誘導方法などの動線を細かく検討し、現地での下見やガイド研修も行い、安全・安心・快適に楽しめる体制を整えています。

—サステナブルツアーアの今後の展望について教えてください。

バスツアーアは、個人では行きにくい場所でも運転や乗り換えを気にせず直行でき、点在する地域資源を効率的に巡ることができます。メリットがあります。サステナブルツアーアはまだスタート段階ですが、この利便性を活かして、参加者にとって大きな負担なく、さまざまに体験を提供していくたいと思います。そして、地域の方々と一緒に取り組むことで、参加者、地域、弊社すべてにとって良いツアーアが実現することができると思います。こうした経験や取組を重ね、継続的にサステナブルツアーアを提供していくたいと考えています。

—ツアーアの実践と経営の両面からサステナビリティを考えるお話をうながしました。

とても興味深かったです。ありがとうございます。

武市 玲子
1962年東京都生まれ。一橋大学商学部卒業。1986年東京都に入都し、人事委員会事務局長、生活文化局長などを経て2022年4月に交通局長就任。23年3月退職し、同年4月株式会社はとバス代表取締役社長就任。現在に至る。